

平成 22 年度第 2 回北九州市高齢者介護の質の向上委員会 会議要旨

1 開催日時

平成 22 年 10 月 19 日 (火) 18:30 ~ 20:00

2 開催場所

北九州市役所 3 階 大集会室

3 出席者等

(1) 委員

井手委員、伊藤委員、今村委員、大中委員、緒方委員、桑原委員、座小田委員、下河辺委員、下田委員、白木委員、白水委員、末次委員、田中(秋)委員、田中(徹)委員、中野委員、中村(貴)委員、中村(久)委員、野村委員、箱崎委員、橋元委員、舟谷委員、丸林委員、村上委員、渡邊委員

欠席者 井田委員、小川委員、河原委員

(2) 事務局

保健福祉局長、総合保健福祉センター所長、地域支援部長、介護保険・健康づくり担当部長、計画調整担当課長、高齢者支援課長、いのちをつなぐネットワーク推進課長、健康推進課長、健康づくり担当課長、障害福祉センター所長、介護保険課長、事業者支援担当課長

4 会議内容

(1) 議 題

ア 介護保険の実施状況について

(2) 報 告

ア 各専門委員会からの報告

地域包括支援センター専門委員会

介護予防専門委員会

地域密着型専門委員会

尊厳擁護専門委員会

認知症対策専門委員会

イ その他

国の動き

北九州八幡東病院における傷害事件控訴審判決について

5 会議経過及び主な発言内容

(1) 介護保険の実施状況について・・・資料1

【発言趣旨】

委員長：要介護認定者とサービス利用者の差について、その理由はどのようなものか。

事務局：要介護認定者のうち、要介護5の方などは、医療入院等によりサービス利用がない場合がある。また、要支援者などについては、今すぐにサービスを使う必要はないが念のために申請されている場合などが考えられる。

委員：計画値はどのように見込んでいるのか。

事務局：国のワークシートを活用し、これまでのサービスごとの利用状況を勘案し見込んでいる。

委員：現場では、訪問リハを行ってくれるPTはあまり多くはないと感じているが、訪問リハビリテーションの利用実績が計画を大きく上回っている理由は、どのようなものか。

事務局：平成21年度の報酬改定により報酬算定の方法が変わったため、計画値との乖離が生じている。実際の利用者数としては大きな変動はない。

(2) 各専門委員会からの報告

ア 地域包括支援センター専門委員会・・・資料2

【発言趣旨】

委員：今後も、窓口での丁寧な対応を心がけていただきたい。

委員：困難事例に対応するため様々な担当者が関わる場合に、誰が中心となるのか不明確な場合がある。地域包括支援センターには大変期待しているので、お互いが連携する仕組みについて頑張してほしい。

専門委員長：今年度は、評価指標の作成と併せて、改善すべき点等についても検討を行っている。

イ 介護予防専門委員会・・・資料3

専門委員長より、平成21年度の実施状況等について報告があり、了承された。

また、介護予防事業に関する国の動きについては、資料7と併せて事務局から概要説明を受けた。

ウ 地域密着型専門委員会・・・資料4

専門委員長より、委員変更に伴う副専門委員長の選任や、地域密着型サービス事業所の指定状況等について報告があり、了承された。

エ 尊厳擁護専門委員会・・・資料5

【発言趣旨】

委員：特定施設やグループホームでは、看護師がいない場合もあり、薬の管理が難しいこともある。居宅療養管理指導を活用し、適切な薬の管理に役立てていただきたい。睡眠剤等を飲んでいる場合は、転倒の原因になることもある。

委員：事故が多いサービスもある。同一事業所であればきちんと指導を行う必要がある。

事務局：事故報告に基づき、要因分析を行い指導を行っている。

委員：誤嚥や転倒については、事故件数の裏に、事故には至らなかったものが多数あると

思われる。施設関係者ではそういった部分も念頭に入れるよう注意している。

委員：件数も必要だが、死亡事故をどれだけ減らすかが重要である。

事故内容をどう検証するかが課題である。

委員：誤嚥には、口の中の問題や食べ物の問題もあるが、口に入れるまでの動作や姿勢について検証すべきである。分析にあたっては、様々な職種による検証が必要である。

委員：精神的なケアのあり方について、施策の展開が必要である。

オ 認知症対策専門委員会・・・資料6

【発言趣旨】

委員長：認知症対策に関する個々の事業間の連携について、現状はどのような状況か。

事務局：地域包括支援センターと成年後見センターとの連携、医療との連携などについて、次回専門委員会において示したい。

(3) その他

ア 国の動き・・・資料7

【発言趣旨】

委員：家族介護者への支援については、きちんと議論いただきたい。

退院時に家族の受け入れがない場合は、在宅生活は難しい。医療と介護の連携において重要な課題である。

委員：家族介護者の支援のあり方については、メンタルも含めて何をサポートしていくのか。地域のあり方も含めて、今後の施策に生かしていく必要がある。

委員長：療養病床については、現状はどのようになっているのか。

事務局：国の転換意向調査結果では、今後の転換意向については未定とする介護療養型医療施設が約70%となっている。

イ 北九州八幡東病院における傷害事件控訴審判決について・・・資料8

【発言趣旨】

委員：今後は、こういったことが無いよう、チームケアの実施が重要である。

ウ その他

- ・乳がん検診「ピンクリボンキャンペーン」について
- ・介護の日講演会の応募状況について